

## あすみが丘小学校田んぼ 2010 稲刈り編 一子どもたちの感想からー

今年はいじめて小山で米づくりをした土気のあすみが丘小学校 5 年生が 10 月 1 日に稲刈りをしました。子どもたちの感想と生きものレポートをご紹介します。

### ■稲刈り・自然観察の感想

\*私は、田んぼに行く前の日に、かまでいねをかるのにすごくけがをしないか心配でした。そしていねをかる時になって、最初はいねをかるのがすごくこわかったけど、いねをかってみたら、思ったよりこわくなくて良かったです。1かぶ目はぜんぜんかかれなくて、1人ではかかれなかったけど、5かぶ目くらいからかんたんにいねを1人でかかれるようになりました。そして、いねをかり終わって、かたいいねをたばにしてひもで結びました。少しむずかしかったので YPP の人たちに手伝ってもらってなんとかひもで結べました。そしていねをかついで帰ってきました。自分たちで植えたなえがこんなに大きくなったんだなと思いました。重かったんだけど、なぜか自分で植えて育てたお米だと思うとがんばって学校に帰ってきました。(A・K)



教えてもらいながら慎重に刈ります

\*最後の田んぼ作りでした。最後は稲かりでした。かまを上手に使い、うまく取れました。すごく楽しかったです。入る時「ずぼっ」と入り、ころびそうになりました。冷たくて気持ち良かったです。(S・S)



大きなショウリョウバッタを見つけてピースサイン!

\*私たちがあすみ田んぼで植えた苗がこんがり黄色になっていてやっとできたんだな—と思いました。私は稲かりをはじめてやったので最初はできるか心配だったけれどやってみるといがいにかんたんで2回目もやりました。すぐになれたのでうれしかったです。稲を持ってかえるのは大変だったけれど学校についたときはいっきにつかれがとれました。たべるのがたのしみです。(I・T)

\*ぼくは、あすみ田んぼをやっているいろいろな事が分かりました。はじめは人間がどんどん自然をはかいしていると思っていたけど、実は人間が田んぼの管理をしっかりしているから虫などがいることを知っておどろきました。この経験をしょう来に役立てたいです。(S・U)

\*私は最初田んぼ作りなんてうえてかるだけだけど実さいには草とりをしたりこしが痛くなったり力のいる作業がたくさんあってものすごく大変だった。いつもこの仕事をやっている農家の人たちは、すごいと思いました。(M・N)

\*田うえするときは20cmくらいで小さかったけど今日いったときはすごくでかくてびっくりしました。いねかりしたときに久しぶりに田んぼに入ってねちょっとうかんしょくがたまりませんでした。いねかりした時に今まであぶなそうだったけど安全にできたのでよかったです。(Y・S)

\*米を実さいに植え、今回のいねかりをして、お米をつくるのには時間がかかり大変なんだなと思いました。お米をかるには、きけんなかまをつかいきんちょうしていねかりをできてよかったと思います。いねをかるのはずぼっとかれてすごく気持ちよかったです。またいねかりをやりたいと思いました。(Y・N)

\*いままでにみたことがない生きものがたくさんいました。どじょうや大きなあめんぼもいました。あめんぼは、大きくてびっくりしました。どじょうは、ほそくてながくて小さかったです。あとカエルを見ました。カエルは、おなかをさわるとしずかになったのですごくいいとおもいました。あとカエルのおなかは、とてもやわらかかったです。(H・S)

\*あすみ田んぼを作って農家の人は毎日たいへんな仕事をしています。自然観察では、めずらしいものがたくさんありました。いちばんびっくりしたことは田んぼの水がきれいなことです。自然を大切にしている農家の人をみないたいです。(A・N)

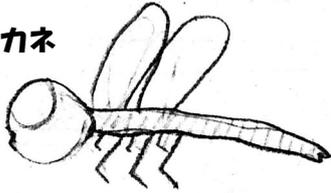
\*私は、初めてお米作りを体験しました。今まで3回行ったなかで、田んぼにいる生きものや植物はみんなかわってました。今回の稲かりでは、かまを使うので、少し心配でした。でも、やってみるととても楽しくてまたやってみたくて思いました。それに、植物が生きていくには、田んぼが必要ということもわかったので、また、お米作りをやりたいです。とれたお米を食べるのが、とても楽しみです。(N・N)



最後にみんなで記念撮影。

## ■生きものレポート

### アキアカネ



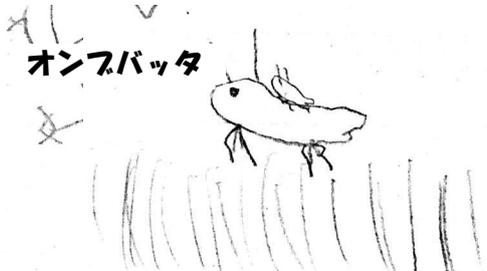
アキアカネは、はらとむねの部分がまっ赤になっていました。よく見るとしっぽがくぼみになっていてそこからメスは卵を産むそうです。(S・U)

### セスジスズメの幼虫



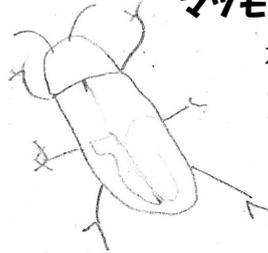
黒くて、だんりょくがあった。目みたいなもようがたくさんあって、目立っていた。(K・N)

### オンブバッタ



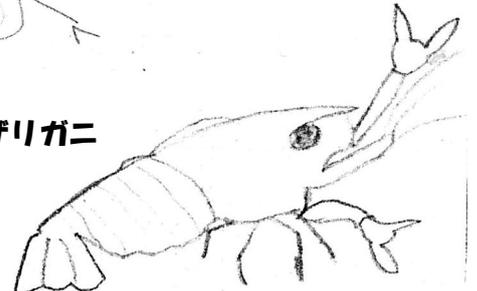
おんぶバッタで初めて知った事は、大きい方がお母さんで、小さい方がお父さんという事です。私は大きい方が親で、小さい方が子どもだと思っていました。(M・O)

### マツモムシ



水面にいる生きものを食べるらしい。すばしっこくてピョンピョンはねてた。(K・M)

### アメリカザリガニ



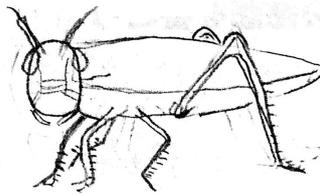
約 1.5 cm で大人よりものすごく小さい。はさまれてもいたくなくてきもちいい。(K・K)

### アカガエル



せなかが赤茶色ほくておなかは真白だった。おなかをさわるとねむってしまった。足の肉はぷにぷにしていた。(N・A)

### イナゴ



6本ある足のうち後ろ足の2本は長い。あごがじょうぶで稲の葉を食べる。(K・S)

## 谷津田いきもの図鑑 No. 47

### ヒヨドリ

谷津に行けば必ず出会うことができる一番普通の鳥がヒヨドリです。と言っても林の中にいることが多いので姿よりもピ～ヨ、ピ～ヨというにぎやかな鳴き声で存在に気づくことがほとんどで、谷津に行ってその声を聞かない日はないでしょう。スズメよりもずっと大きくて長い尾の先まで入ると30センチ近くになります。全身が灰色でちょっと地味な印象ですが、ほおのあたりが褐色、頭に少し長い毛が生えていてカシラダカほどでないものの時にそれを少し逆立てている様子はとても愛嬌があります。公園や庭にも訪れるごく一般的な鳥ですが、意外と名前と姿が一致していない方が多いようです。ヒヨドリは1960年代までは森の野鳥として知られており、1970年代から人里に進出して生息域を拡大して街中でも普通の鳥になったそうです。一年中見られる野鳥ですが、渡りをするでも知られており、春と秋の渡りの季節には日本の各地で100羽から数百羽の群れで海を渡る姿が毎年目撃されています。源義経の戦いで知られる「ひよどり越え」もヒヨドリの渡りが見られる名所として名付けられたそうです。谷津で一年中見られても冬と夏では個体が入れ替わっているかもしれません。ヒヨドリは他の鳥と同じように昆虫などを食べるほかに、花に顔を突っ込んで蜜を吸ったり、木の実を食べたりします。庭にピラカンサなどがあると喜んで食べに来ますし、餌台にオレンジなどを置くと集まってきます。ただ、果実や冬場にはコマツナやキャベツなど葉物野菜を食べてしまうことから、農作物に被害を与える害鳥としても知られていて、毎年有害鳥駆除でかなりの数のヒヨドリが捕獲されているそうです。夏には作物の害虫を食べてくれているのですが…。



木の実をついばむヒヨドリ(下大和田にて、撮影：網代春男)

(高山 邦明)



# 里山たんけんレポート

## 第129回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い 生きもののつながり —クモ・バッタ・カマキリ 喰う、喰われる—

2010年10月3日(日) 晴れ

今日は生きものの喰う喰われるをテーマに観察して谷津をめぐるしました。

ナガコガネグモがノシメトンボを捕らえているのが3つ、コバネイナゴが1つ、コカマキリと思われるもの1つ。スジトハシリグモがホソヒラタアブを捕らえているのが1つ見られました(皆が見たものを合わせるともっと多いでしょう)。飛んでいる虫を捕らえて食べるトンボ、生きた虫を捕らえて食べるカマキリも食物連鎖の中では食べられる存在です。すべからず動物は他の生命を支えるために存在すると言えます。

赤とんぼの季節、赤くなったナツアカネ、マユタテアカネ、コノシメトンボ、ノシメトンボの他、オニヤンマ、シオカラトンボ、オオアイトトンボなどを観察しました。アキアカネが見られなかったのは気懸かりです。激減しているとの情報があります。

水田雑草ではコナギ、イボクサ、タカサブロウ他、ツククサ、イヌタデ、キバナアキギリ、などが目立ちました。アケビの実が高く手が届かず味わえませんが、ホンタデやハッカを味わったり、栗を拾ったりしました。山の中はノウタケ・ホコリタケ・テングタケなどキノコの仲間が種々たくさん出ていました。

(参加者 大人9名、高校生9名、子ども1名; 報告: 網代春男)

## 番外編 下大和田 YPP「コシヒカリの脱穀」

2010年10月2日(土) 晴れ

9月18日に刈ったコシヒカリと農林1号、黒米の脱穀をしました。予定していた10月3日の天気が悪そうなので急遽一日早めて行いましたが、常連の皆さんが大勢集まって下さいました。脱穀機が順調に動き、稲わらを離れたモミが袋をどんどん満たしていくのはいつ見ても気持ちがいいものです。子どもたちも稲運びや脱穀が終わった稲わらの片付けを一生懸命手伝ってくれたおかげで昼過ぎの早い時間に全部終わることができました。異常気象のせいで収穫は少なめですが、みんなで食べるには十分な量。12月の収穫祭での試食が楽しみです。

なお、10月30日に予定されていた緑米の稲刈りは台風による荒天のため11月6日に延期となりました。

(参加者 大人14人、小学生6人、幼児1人; 報告: 高山邦明)



収穫の米袋と一緒に記念撮影 (撮影: 田中正彦)

## 第60回 小山町 YPP「稲刈りば〜と2」

2010年10月24日(日) 晴れ

稲刈り第二弾は古代米の緑米です。学校たんぼや YPP の田植えなどに参加した親子連れの皆さんが大勢集まってくださいました。最初に稲の刈り方や結わえ方、おだへのかけ方を教わってから稲刈りをはじめました。泥んこたんぼに慣れていない子はまずは泥の中をちゃんと歩けるようになるのが大変なので、最初はカマを持たずに歩く練習からスタートです。でも、みんなすぐに慣れて不安定な泥の中でうまく稲を刈れるようになりました。稲刈りをしているとクモやカマキリの卵、それにカヤネズミの巣も見つかりました。小さな助っ人さん



脱穀後のモミから丁寧にゴミを取ってくれました (撮影: 榎本一雄)

が多かったので稲刈りはなかなかかどりませんが、楽しい作業でした。

子どもたちが大勢参加してくれました (撮影: 榎本一雄)

並行して以前に刈った黒米の脱穀もしました。足踏み脱穀機を使っただけの脱穀は子どもたちに人気で、脱穀機に行列ができていました。足踏み脱穀機だとゴミがたくさん混じってしまうのですが、子どもたちが丁寧にゴミを取ってくれたので大助かりでした。

(参加者 大人15人、小学生16人、幼児5人; 報告: 高山邦明)



## <谷津田・季節のたより>

### 小山町

- 10月11日 セイタカアワダチソウが咲き始める(高山)。  
10月24日 ジョウビタキカルリビタキの「ヒッヒッヒッ」というさえずりを聞く(高山)。  
10月31日 斜面林の縁でヤクシソウが開花。稲刈りが終わった田んぼではアキアカネやナツアカネが産卵(高山)。



産卵するナツアカネ (2010/10/31 小山にて、撮影高山邦明)

### 下大和田

- 10月2日 林の中にさまざまなキノコがたくさん出ていた(網代ほか)。

## イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。

・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。

・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

## ▼第115回 下大和田 YPP「古代米の脱穀」

今年の田んぼでの最後の作業、古代米の脱穀です。収穫祭でのもちつきを思い描きながら作業しましょう。どれくらいとれたかお楽しみに!

日時: 2010年11月13日(土) 10:00~14:00、予備日11月14日(日)

\*稲の乾燥具合によって当日の天気が悪くても脱穀できない場合があります。中止の場合は前日までにちば環境情報センターあるいはちば・谷津田フォーラムのホームページでお知らせします。

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。

また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)

持ち物: 弁当、飲み物、長靴(長めがいいです)、帽子、軍手、敷物など。

参加費(資料代等): ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

## ▼第131回 下大和田 12月の谷津田観察会とごみ拾い「冬越しのいきもの」

谷津は紅葉の季節、冬鳥の声も聞こえる頃です。生きものの冬越しを見ながら初冬の谷津を散策します。

日時: 2010年12月5日(日) 観察10~12時 午後は田んぼの作業など自由活動 \*小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(下大和田 YPP に同じ)

集合: 下大和田 YPP に同じ

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

## ▼第61回 小山町 YPP「田んぼの手入れ・自然観察」

年内最後のイベントは今年一年お世話になった田んぼの畦の手入れをします。また、冬鳥たちでにぎわう初冬の谷津を散策して自然観察もします(11月の小山町 YPP はお休みです)。

日時: 2010年12月12日(日) 10:00~12:30 \*小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物: 飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物、もしあれば双眼鏡など。

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば環境情報センター

**編集後記** 生物多様性の国際会議COP10が終わり、次はアジア太平洋協力(APEC)の首脳会議が日本で開かれます。APECに向けて話題となっているのが農業分野の関税撤廃とそれに向けた“強い”農業の育成です。貿易に大きく依存する日本にとって農業市場を海外に開くことが求められている実情は理解できるのですが、“弱い”農家のおかげで守られている日本の貴重な自然のことが話題に上らないのが不思議でなりません。COP10でも議論されたはずなのですが…いや、COP10は生物資源の利用問題ばかりがクローズアップされて多様性保全のことはいつの間にか隠れてしまったようにも見えましたね。ちょっと残念です。(高山邦明)